

【神奈川区】令和 2 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 2 年 9 月 4 日 9 時 58 分 ～ 11 時 24 分
場 所	神奈川区役所 本館 5 階 大会議室
出席者	<p>【座長】宇佐美 さやか 議員</p> <p>【議員：4 名】藤代 哲夫 議員、小松 範昭 議員、中山 大輔 議員、竹内 康洋 議員</p> <p>【神奈川区：名】高田 靖 区長、日比野 政芳 副区長、小西 美香子 福祉保健センター長、堀 敏彦 福祉保健センター担当部長、西嶋 祐一 神奈川土木事務所長、星野 雅明 神奈川消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和元年度 神奈川区個性ある区づくり推進費決算状況について 2 令和 2 年度 神奈川区個性ある区づくり推進費執行状況について 3 令和 3 年度 神奈川区区づくり予算編成の基本的考え方について
発言の要旨	<p>【議題 1】</p> <p>宇佐美議員：3 頁の地域防災力の強化で、地域防災拠点への区独自の備蓄品として、更衣用テントや防犯ブザー等をすべての拠点に配布したということか。</p> <p>増田総務課長：その通りです。</p> <p>宇佐美議員：被災地の熊本では、着替えが大変だったと聞き、更衣用テントの用意について申し入れをしたが、考慮され良かった。しかし、これからは、避難所の感染リスクを考えていかなければならない、更衣用のテントだけではなく、場所・個所数を増やすということを考えて隔離するテントというものはないのか。</p> <p>増田総務課長：風水害時に開設する避難所対応として、大人 2 人ぐらいが横になれる簡易型のテントを、各学校に 30 個ぐらいずつお配りして、学校の形状や広さなどにより、ほかの教室が確保できない、隔離できない場合には活用していただくようにしております。</p>

宇佐美議員：ご家族だけとか、隔離できる方策があるということか。

増田総務課長：はい、その通りです。

小松議員：6頁の振り込め詐欺等撲滅対策事業について、自動通話録音装置の貸出ということだが、申請の年齢制限はあったのか。

安達地域振興課長：対象は、65歳以上でお願いしております。

小松議員：町内会を通じて募集をかけているのか。

安達地域振興課長：区役所に直接申し込みさせていただいています。

小松議員：書類（申請書）を直接、提出してもらうのか。

安達地域振興課長：そうです。

藤代議員：32頁の地域力アップ推進事業だが、地域を回ると自治会・町内会活動の担い手が少ない、地域差もあるが人材が少ないとずっと聞いている。今回、新たに神之木西寺尾連合自治会と幸ヶ谷地区連合町内会で取り組んだようだが、コロナ禍だけではなく、様々な場面での人材が必要となってくると思うが、地域人材マッチング事業で成果が出たのかどうか聞きたい。

谷口区政推進課長：昨年度は、神之木西寺尾連合自治会と幸ヶ谷地区連合町内会で、アンケートを実施しましたが、その後の活動については、コロナの影響でなかなか進まない状況です。ただ、おとしマッチング事業を実施した地域については、実際に手を挙げていただいた方々が、そのまま自治会・町内会の活動に参加していただいているという事例もございます。今後、コロナ禍で活動を停止している地域についても、つながりをしっかり作っていけるように支援をさせていただきたいと考えております。

藤代議員：現在、神奈川区の連合が21あるということだが、連合の下に

は、自治会・町内会があり、それぞれその中で人材を発掘すると、例えば企業が多いところは、企業に参加していただいたり、防災の時にも役割を担っていただけることもある。掘り下げていろいろ検証してみるということが必要だと思うが、どの自治会・町内会も人材が不足しているという状況に関して、区長としての考えを聞きたい。

高田区長：コロナの影響で、地域の元気がなくなることを心配しております。昨年までのアンケートの結果を見ますとお手伝いをしても良いという方がたくさんいることが分かっています。ただ、自分からは声を挙げないけれど、手伝ってくれませんかとお声をかけると手伝っても良いという方が多くいることが分かりましたので、きちんと地域に繋げるように取り組んでいきたいと思えます。コロナの影響もございましたので、SNS を活用した地域の支援等を新たに検討していきたいと考えております。

藤代議員：ぜひ検討していただきたい。

竹内議員：災害に対する取組について、女性の視点を取り入れた避難所運営支援など継続して行われている中で、4頁に記載されている災害時要援護者支援事業で作成した神奈川区の見守り活動啓発用パンフレットを配布しているとのことだが、資料としていただきたい。15 ページ(8) 保育・教育施設防災アドバイザー派遣事業で、施設と地域及び施設同士の連携をテーマとしてワークショップを開催したとあるが、具体的にどう連携していくのか教えて欲しい。

岩松こども家庭支援課長：保育園ですが、保育園の建物の中にいる場合には、災害に対する備えはある程度マニュアル化していますが、散歩など園外に出ている時に災害が発生した時に、保育士だけでは、園児の安全を守れない場合があります。そこで、地域の方に、保育園に戻るための援助をしていただくですとか、津波の危険のある地域は、高いところへ避難する必要があるのですが、近隣の企業と連携し、その建物の中へ避難させていただくことが発生してくると考えております。保育園だけで活動していることが多いのですが、地域の方と日頃から顔の見える関係を作ることが非常に重要です。災害の時に手伝っていただくには、日頃から自治会・町内会の会合などに顔を出す、地域防災拠点の訓練に参加していただくことが

必要だと考えております。

竹内議員：共助の取組は大きな意味合いがある。地域との顔の見える関係づくりの事業については評価している。保育・教育施設や放課後事業とか様々なケースがあると思うが、継続して深めて欲しい。

宇佐美議員：17 頁の放課後児童クラブの移転がすべて確定したということで、頑張っていたいただいたと思う。今後も引き続き力を借りたい。

【議題 2・3】

中山議員：自主企画事業費見直しについて説明していただいたが、全事業に対し見直しを行い、900 万円を捻出したということか。

増田総務課長：全事業に対し見直しを行い、現時点でこういった金額が出てきております。

中山議員：これから、正月にかけて、イベント等を含めて、神奈川区では実施する方向の事業があると思うが、そうした予算については、同じような考え方の中で、例えば新たな対策に予算を振り向けられるのか。

増田総務課長：これから後半に向けて同じような見極めを行っていきます。予定をしていることと別の形で同じ効果を得られるのであれば、そういった形での予算を執行することを考えていかなければなりません。また、様々な経費を感染症対策に使っていますが、今後も必要となってくると見込まれますので、こちらにもあてがっていかなければならないと思っております。

中山議員：予算が使えるのであれば、神奈川区でさらに見直しをして、浮いたお金を例えば、医療関係者にマスクや消毒などいろいろなものを配ることを考えていただきたい。また、来年度の自主企画事業費予算の総額は、同じくらいを見込みんでいるのか。

増田総務課長：来年度の金額については、具体的には出ていませんが、市から示されている情報の中では、基本的には同じような形であると思われ

ます。

中山議員：これからの浮いたお金の中で、新たな取組として区役所でさらに余剰金が出た場合にどういう活用の仕方をするのか、方向性はあるのか。

増田総務課長：今のところ年度当初に定められた予算がありますので、その考え方にそった形での執行を考えていきたいと考えています。先ほどお話にありました医療機関へのマスクなどの配布など、ひとつとして考えていきたいと思いますが、まだはっきりとは決まってはおりません。

宇佐美議員：区づくり自主企画事業で、防災拠点に消毒液などの感染症対策にも使えるということか。

増田総務課長：そういった形で活用します。また、区庁舎に来庁される方などの感染症対策に使っていききたいと思っております。

宇佐美議員：これから長引くことを考えて、備蓄するという考えか。

増田総務課長：拠点については、災害がいつ発生してもいいように先行して拠点の備蓄を始めているところです。

藤代議員：令和3年度の区づくり予算編成の基本的な考え方、新型コロナウイルス感染症の新しい生活様式については、どうやって区民の皆さんへの周知をしていくのか。感染症対策を目標達成に向けた取組に加えてもいいのではないか。区役所の考え方、目標達成に向けた取組について聞きたい。

高田区長：先生のおっしゃった取組を含めましてやっていきたいと考えています。具体的には、地域における見守り活動、地域防災拠点の訓練など、さまざまな活動が停滞して、地域力の低下が非常に心配されています。ただ、このような中であるからこそ、コロナ禍で地域活動を継続・活性化させるためのやり方を変えるなど、新しい手法を含めまして、地域の皆様とともに考えて、できることからやっていきたいと考えております。

藤代議員：地域に目を向けると様々なイベントが中止または延期になり、どうしようかという話を聞いている。感染症というところが大きなテーマとなっている。感染症を大きく謳うのもどうか思うが、少し留意しながら、情報発信して行って欲しい。これは、提案です。

【その他】

藤代議員：補助金だが、自治会・町内会の活動が制限されたということで、今年度の補助金が使えないという話を聞いている。そういった声が区役所へあがっているか。

安達地域振興課長：連合町内会長をはじめ、各町内会長から例年通りの執行ができないので、いろいろ考えているとお聞きしています。感染症予防の観点から、できること、例えば神之木地区連合町内会では花火を打ち上げるなど、そのような使い方工夫していると伺っております。

藤代議員：自治会・町内会の中で、工夫して使うという取組をしているようだが、なかなかどうしようかという声も聞いている。区役所へ相談に行った時には、提案するなど寄り添っていると思うが、どうか。

高田区長：地域の皆様から、町内会費を集めて、今年は使い道がないということで町内会をやめるという声等が出ていると聞こえてきています。工夫して使用していただくということだと思いますが、相談に来られた方には、一つの例として感震ブレーカーをみんなにつけていただくとか、いろいろな区役所のメニューがありますので、地域の特性にあった使い道を提案させていただきたいと思います。

藤代議員：いろいろな施策とつなげていくのが大事である。情報提供する等の取組をして欲しい。

竹内議員：早くマスクがとれて、顔が見えていろいろ出来るようになることが望まれるが、繰り返されている様々な環境を考えると、自治会・町内会で ICT 環境が整ったとしても使いこなせるか。市の全体の予算でもそういう説明が少し見て取れるが、現段階で、どのようなことが考えられて、どんな方向で進められそうか。

安達地域振興課長：ICT の環境整備の必要性がありますが、今回の補正予算の中で自治会・町内会へアドバイザーを派遣する事業を提案しております。アドバイザーからの指導を踏まえた上で、今後必要な ICT 環境が整備されていくのではないかと、地域活動推進費補助金などを活用していただいて、ICT のインフラ整備が進んでいくのではないかと考えています。

竹内議員：すべてがまかなえるとは思えないが、説明のとおり様々な使い方をして、区が初めてこの会議をズームで行っているように、少しずつ使える環境が整っている。今日の事業等でも、例えば、健康づくり事業等、集まって楽しいということで、地域毎に集まっていたが、介護、地域包括、見守りについても、緩やかなつながりを含めたことを考えると命を守る、これは生活を守ることだと思う。健康であることの事業も重ねてきたが、これからの方向性としては人口減少とか高齢社会を考えて、すべて集まるのがよくないことではないけれども、これを機に、例えば働き方であるとか、様々な検討をしなければならぬ時期に、できること、つながり深まること、または若い人が地域に目を向けていただくこと、そんなこと含めて、地域のつながり深める、災害でいう共助、ぜひそういった方向性の事業を積み重ねることによって、新たな時代の変化に対応できるそういう方向性を検討しなければならないと思うが、区長の所感について聞きたい。

高田区長：先生のご指摘いただきました課題をその通りとして受け止めています。今日の会議も Web で開催しておりますが、区役所へのズームの導入が 8 月で、ICT 環境は脆弱な状況です。局と話をしております、来年度に向けて今年度できることから ICT 環境の整備を行っているところです。働き方改革としましては、区役所の特性として窓口業務があり、事務も疲弊しております。在宅勤務が難しいこともありますが、働き方改革を実現できるような取組を行っていきたいと思っています。

竹内議員：お越しいただかなくてもできること、マイナンバーカードお持ちになればコンビニで住民票が取れるなど、ICT 環境を整えるには区だけでは難しく、市がもっと予算を含めてやらなければならないことだとは思いますが、現場に近い、市民区民に近い区が声をあげていかないと市民の皆様

区民の皆様から多様な意見をいただき、歩調をあわせて新たな環境にも乗り越えられるそういったものを作っていければと思う。

宇佐美議員：生活困窮者が増えてしまっている。区役所に相談に来られる方は良いが、コロナ感染が怖くて出てこられない、引きこもりになっている方々へのアプローチをどのようにしていく考えか。

瀧川生活支援課長：生活困窮者ですとか、生活保護の相談につきましては、4月以降電話でのご相談が大変増えています。住居確保給付金に関しては、申請にあたりまして郵送による受付も行っております。件数は少なく、直接来てお話をしたいという方がお電話の後に来庁されたりします。そういう方についても受付けております。

宇佐美議員：電話での相談が一番多いということか。

瀧川生活支援課長：一番多いということではありませんが、最初に来所されるのではなくて、お電話される方が増えています。

宇佐美議員：区役所へ来られない方にどう対処していくのか。

瀧川生活支援課長：こちらから出向いて、ご相談できる場合もありますが、高齢者の方などは、地域包括支援センターにご相談できる場合には、地域包括支援センターにご連絡し、訪問していただくとか様子をみていただくなど行っています。庁内では、他の部署と連携して、そちらからも訪問していただいております。

宇佐美議員：熱中症も心配、1人で亡くなることのないように心配している。終息するか分からない中で訪問も大変だと思うが、つながりを大事にしながらやっていただきたい。

備 考